

## 会議録

会議の名称	西東京市公民館運営審議会平成21年度第5回定例会会議記録
開催日時	平成21年8月26日（水曜日） 18時30分から20時20分まで
開催場所	田無公民館 第2学習室
出席者	会長：森忠 副会長：渡辺文子 委員：中嶋美沙子、定盛秀俊、千葉桂子、古賀節子、須磨田純子、柴山隼、大島眞之、福島憲子、加藤真理、萩原建次郎、上田幸夫 職員：相原館長、山本主幹、近藤係長、寺嶋分館長、小笠原分館長、玉木分館長
欠席者	西嶋剛昭
議題	(1) 第4回定例会の記録について (2) 報告事項 1 行政報告 2 事業計画書・報告書について 3 公民館だより編集室報告 4 都公連研究大会企画委員会報告 (3) 協議事項 1 公運審委員の役割について (4) 事務連絡及び情報交換 (5) 次回の日程について
会議資料の名称	(1) 事業計画書 1 お一人様のための簡単ひと鍋クッキング（柳沢） 2 マルクス入門講座（柳沢） 3 現代社会の子育てビジョン（田無） 4 小・中学生対象 フードコーディネーターによる料理&食材レッスン（田無） 5 幼い子を持つ母親のための講座「心響きあう・あったかママスタイル」（谷戸） 6 セカンドライフ講座 あなたの明るい第一歩を応援します（ひばり） 7 健康講座「経路リンパマッサージ」（ひばり） 8 女性講座「傷つくことをおそれずに、楽に生きるために」（駅前） (2) 事業報告書 1 ライター入門講座（柳沢） 2 短期集中、若い女性のための「ゆかた入門」（柳沢） 3 夏のわくわく体験 縄文キッズに挑戦 糸づくり、布づくり（柳沢） 4 乳幼児を育てている人対象講座「子育てを楽しもう」（田無） 5 50～60代の女性へ「私流いきいきセカンドライフ」夫婦向き合いの極意を探る（田無） 6 乳幼児を育てている女性のための講座「感性豊かに・さわやかママスタイル」（谷戸） 7 健康講座「禅と太極拳」（谷戸） 8 ココロ・カラダ・地球にやさしい21世紀の暮らしを考える いきいきロハス講座（ひばり） 9 科学あそび講座「空気であそぼう」（ひばり） 10 キッズ茶道講座「お抹茶をのんでみよう」（ひばり） 11 盲導犬についてのお話と歩行訓練体験（駅前）
記録方法	<input type="checkbox"/> 全文記録 <input type="checkbox"/> 発言者の発言内容ごとの要点記録 <input checked="" type="checkbox"/> 会議内容の要点記録
傍聴者	<input type="checkbox"/> 有り（人） <input checked="" type="checkbox"/> 無し

## 会議内容

### (1) 第4回定例会の記録について

○副会長：

記録の修正についての申し出等を確認する。

○職員：

特にない。

○副会長：

配付の記録のとおりとする。

### (2) 報告事項

#### 1 行政報告

○副会長：

報告を受ける。

○館長：

新型インフルエンザ対応として、各館の出入り口付近にアルコール消毒液のボトルを設置した。9月定例市議会に補正予算が提出され、可決されれば公民館に地上デジタル対応テレビを購入することになる。ひばりが丘公民館の分館長が体調を崩して長期に欠席をすることになった。

○副会長：

特に質疑がなければ、質疑を終結する。

#### 2 事業計画書・報告書について

○副会長：

質問・意見を受ける。

○委員：

柳沢公のひと鍋クッキングの「ほうとう鍋」の麺は、手打ちするのか。

○職員：

料理教室ではないので、市販の麺を活用する予定だ。

○委員：

なぜ、今マルクス講座なのか。

○職員：

このところ、書店の売れ筋コーナーでも、マルクスが静かなブームと聞いている。年度当初に社会問題を取り上げる講座を館として予定したが、テーマを絞る中で担当と係全員で相談しながら決めたところである。

○委員：

今回の計画書ではないのだが、駅前公の1周年記念コンサートが近づいている。開館1周年の記念イベントは他にも予定しているのか。また、住吉町から東町に移ったことでの検証やそうしたことを話し合う場は設ける予定はないのか。

田無公の社会問題講座は、準備会を作る予定と聞く。テーマが大きいのが、どのように進めるつもりなのか。

○職員：

コンサートは今週の土曜日に実施するので見学してほしい。実行委員会とともに開催する。

館としての総括はしていないし、今のところ指摘のような集いを持つ予定はない。新しい地域への進出のため、地域の中に公民館を定着させることが最大のテーマになっている。まずは利用の方法を覚えてもらう。その上で、住吉公からの移転の問題等は今後の課題としたい。10月の利用者懇談会では、聞くこともあるかもしれない。

また、別の視点になろうが、芝久保のような利用者連絡会を立ち上げられないものか模索している。いずれにせよ、1年1ヶ月では、利用者も館側もまだまだ馴染むことが課題であり、指摘のようなことは2年目に向けて頭出ししてみたい。

○職員：

講座の準備会は9月2日に初回が行われる。その中でつめていきたい。

○委員：

駅前公の1周年コンサートの実行委員である。私も参加するので、ぜひ観に来てほしい。

○委員：

柳沢公の若い女性向け講座は興味深い。参加者はどういうきっかけで参加してきたのか、職員はこの参加者どう今後の活動につなげようと考えているのか。

○職員：

ゆかたの着付けはあくまで手段であり、着付けをテーマにしながらも初めて参加する公民館講座を通じて、地域の中にこうした施設があることを覚えてもらうということがポイントである。正直なところ、このテーマの参加者にいきなり次の地域活動につなげることは難しいと考えている。まずは公民館を知ってもらう、今回はここまでだ。

○委員：

若者がこの講座を知った媒体は。担当者の反省に「スタッフの増員の必要性」が述べられているが、公民館の利用サークルに着付けを行う人はいないのか。こうしたサークルに頼むことが良い効果を生むと思う。

○職員：

この講座に限らず、若い人のための講座の参加者に聞くと、以外にも公民館だよりを見て参加、という答えが圧倒的になる。ホームページにも掲載するが、むしろ少数だ。

利用サークルの活用は、柳沢公のテーマではあるが、残念ながら着付けサークルは当館には存在しない。また、主の講師との調整を考えると、教え方の異なる人々に頼むこともできないと思う。

○委員：

前期の委員は「公民館における「子育て支援」の役割に対する答申」を館長に提出した。その成果が徐々に見えてきている。今月の立案内容を見ても、2講座ほど子育てに関するテーマ設定が仕掛けられている。先月も目にした。しかも、田無公などは半年にも及ぶ長期の内容であり、大変心強く感じている。今後とも、予算の許す範囲で継続してほしい。

○委員：

子ども参加の講座の報告が相次いでいるが、こうした参加児童をリピーターとして取り込む方法を考えてはどうかと提案する。

○職員：

大変残念な知らせになるが、9月実施予定の「やぎさわ探検隊」であるが、ラジオ、一般紙への掲載も含めてPRに努力したが、結果的に1組の親子しか参加がなく、昨日本人との連絡の上、今年の実施を見送ることにした。今年で4年目ということもあるのか、柳沢エリアで興味のある方は、既に参加してしまったのであろうか、来年度のテーマについてはじっくりと検討したい。

○副会長：

質疑を終結する。

### 3 公民館だより編集室報告

○副会長：

報告を求める。

○委員：

8月号の反省。8月の1面は、平和をテーマにするという営みについては、市民からの声でこの伝統を継続してほしいということだ。サークル訪問は尺八の若竹会だが、記事により新会員が増えたという反応があった。田無公の国際理解講座は、申込日に1時間で定員に達し、受け付けられなかった人の苦情が他の館にまで及んだ。結果論であるが、電話受付でない方が良かったのかという声があがった。今号のレイアウトは苦労した分、見易くなったと自負している。その反面、会員募集の記事に掲載ミスが発見され、次号でお詫び記事を載せることになった。

9月号は既報のとおりで、100号記念号だ。1面の座談会の感想を来月に聞かせてほしい。講座の講師等の肩書きであるが、多くの肩書きを持つ方も紙面の都合により2役を上限に掲載することを改めて確認した。

10月号の1面は、田無公のロビーを飾り付けているボランティアメンバーの「紙風船」というサークルを取材した。サークル訪問も田無公の子どもコーラス、キッズクワイヤー。

11月号の1面は、芝久保公民館まつり。

ライター講座の参加者が5人程度の自主サークルを立ち上げたという報告も受けた。

○副会長：

特になければ、質疑を終結する。

### 4 都公連研究大会企画委員会報告

○副会長：

報告を求める。

○委員：

5つの課題別集会の委員会に別れて、各分科会ともに意欲的に取り組んでいると思う。

私の参加している第5分科会は、インターネットと広域連携をテーマにして、若者を取り込むための方策について研究協議をする予定だ。助言者には、常磐大学の教授を依頼した。

9月には、大会事務局から要項が配布されることになっている。

○職員：

補足する。要項の配布は、大会事務局の小金井市公民館から都公連の加盟市に配付される。それが届いたら、柳沢から全委員の手元に配るので、どの分科会に参加してみたいかと呼びかけ文の中から選択してほしい。小金井市が会場のため、全委員分の参加費を予算化しているの、今から12月13日の予定は空けておいてほしい。

○副会長：

特に意見がなければ、質疑を終結する。

(19時03分休憩)

(19時10分再開)

(3) 協議事項

1 公運審委員の役割について

○会長：

先月に引き続き、公民館運営審議会委員の役割について、萩原委員のレクチャーを受けたい。

(萩原委員のレクチャー)

○会長：

疑問に思う点などがあれば質疑を受ける。

○委員：

答申文5頁の図のような答申の内容とは異なり、現実の市民のニーズは特定の年齢や世代に限定した、特化したサービス、課題設定を求めているのではないのか。

○委員：

他の専門的な施設で保育士が子育てに関する相談を受けている。特定の年齢や世代に特化することについては大変神経質なほどの対応をしていると聞く。それは、母親は自分の子どものことだけに深まってしまい、公民館のように多世代の人々との関わりを持つことができない状況を気遣い、限定された年齢の人々だけの関係にならないようにしているようだ。

○委員：

公民館には、子育て世代からのニーズがあるのか。こうした文書にしても、アピールしない限りには市民には伝わらないと思う。アピールすることがまずは大切なことだろう。

専門的でない、子育て経験を提供できる施設です、というような情報を提供する。

○委員：

専門的でない情報を求めるニーズは高いと思うのか。

○委員：

高いかどうかは理解していない。

○委員：

市民の子育て支援のあり方の問題意識。市の施策等に対する物足りなさ、要求がどこにあるのかを知らないと、ただ知らせても期待を受けることはできない。

○委員：

専門的な施策を要求する人もいよう。他方、アットホームな環境が好きな人は、専門的でないものを求めると思う。公民館は、専門施設ではないということをPRしてはどうか。

○委員：

そうした内容をどのようにPRできるかだと思うが、施設の独自性と存在感をどう光り輝かせるか。

○委員：

答申文の5頁に書かれている、子育てをテーマにして多くの世代が交流できるという発想、こういうことが現実化すればよいと思う。

孫を保育園に預けにいくと、おばあちゃんを欲しているということを肌で感じることもある。核家族での子育て、その上近所の人とも付き合いが少ない、そんなことを公民館が地域の中の施設として補完できるとすれば、そこにニーズはあると思うが。

○委員：

子育て中の方は仕事のために保育園を探す。まずは預かってもらうことが大切である。

人生は計画的に物事が進むわけではなく、その隙間を埋めることは必要なことだが、私は子育てをしているときには公民館のような場で学習をするチャンスはなかった。しかし、個人的には人とつながる学びの場が欲しかった。親も子も人とつながる場が欲しくなるものだと思う。そうすると、仕事の時間を作るためだけの保育ではなく、もっと緩やかな時間が大切なことを感じてくるものだ。皆感じていることだと思うが、これをPRするのは難しいことだと思う。

豊かになることだけでなく、次のステップを踏み出す、人との触れ合いを学ぶ場、この必要性をどう伝えたらよいのかは難しいことだろうと思う。

○講師：

まさに、公民館の体験的な活動内容を言葉にして、その良さ、優位さをPRすることの重要性、それが今回最大に苦心したこと。感覚的なことを言葉にするのは大変であった。さらにそれを知らない人に説明するのは至難だ。

現在、青少年という30歳代にまで広範になっている。消費社会の中では人と人がつながらなくてもいくことに、取り敢えず支障はない。そういう人々に対して、人と人のつながりの大切さを伝えるのは難しい。

キーワードとすれば、居場所、つながりということになるだろうか。

○職員：

公民館が専門施設と競合すれば霞んでしまう。ある意味漠然とした誰でも立ち寄れる社会教育施設での子育てとは、保育は誰のためにあるのかということテーマにして議論してもらった。

○委員：

おじいちゃん、おばあちゃんを大切に捉える。そういう世代を取り込まないシステムは困難だ。その中では、おおらかな子育て支援が可能と思う。社会教育の場では、それを地域づくりという言葉に託している。地域づくり、につながらない方策はどうしても脆弱になる。これが公民館の方法論だと思う。

孤立して、自信がなくなり、不安が助長する。そうしたことから脱却を教えてくれる、そこにこそ核心があると思う。そのことをどれだけ多くの人に伝えられるか。きっかけづくりは大切なことだ、この答申も多方面の人に読んでもらう努力はしているのか。

○会長：

現実として、子育て中の母親対象事業がふえている。講座内容も多岐に渡っておりよいと思っている。こうした講座参加をとおして、公民館のよさを伝えることもできる。子どもつながりだけの付き合いではなく、地域のつながりを大切にするのがよさだと思う。

前期の委員の中では、こうした論議の上での結論が答申の5頁に記載した図のような関係になっている。言葉で説明するのは難しいので、図式化した。

職員は有意義な講座をとおして知らしめる、公運審は市民と職員との橋渡し役となって、地域はこうなったらよいと思うことを伝えていってほしい。

○委員：

公民館の講座を見ていると、子育ては母親をターゲットにしているようだ。こうした中に、中高年齢対象講座に参加している方の中で、教えても良いという人に参加してもらってはどうか。

私は今、お笑い講座に参加している。10代から70代の人が参集して、1つの課題に対してもまったく違う捉え方や感じ方をしていることを目の当たりにした。

専門施設には太刀打ちできない部分もあると思うが、そうでない良さを知らせることが重要だ。

○講師：

専門施設と張り合うだけではなくて、専門施設において満足が得られない人に地域の中の行き場を紹介してもらおう。講座の情報などを関連する施設に置いてもらうことも必要だ。職員の情報共有が必要と思う。

緩やかに支援してほしい、と感じている人へのPRが必要なかもしれない。

○委員：

公民館は大変間口が広い施設だ。しかし、公民館はカルチャーセンターではない。最も大切なことは地域づくりということなので、そうした中では構えなくても「ロコミ」で広がるということもある。むしろ狭いようであれば、地域間で市民の感覚も違うということを知る必要があると思う。

○委員：

この答申の中で大切なことは「排他的にならない」ということだと、私は感じている。

保育園の親どおしは大変仲が良い、情報も密であるが、どうしても狭い人間関係になってしまう。同じ子育て中であっても幼稚園に子どもを通わせている親との付き合いは薄い。公園や地域でサークルができたとしてもその中に入っていけるかどうか心配になる。地域にはいろいろな人がおり、多様な考えの人もある。同様に公民館にも多世代、いろいろな考えの人が通ってくるが、その仲間に誰でもが入れるということが大切と思う。

○職員：

本日の質疑を聞いていて、職員として、この答申を伝える努力をどこまでしてきたのか、関係施設全てに理解を促していたのか、また、市民にとって有意義な講座等を用意できているのか、そのあたりもこの議論を参考にして職員間でも深めていきたい。

○委員：

学級講座にはおのずと限界があると思う。例えば「やぎさわ探検隊」に行けば愉快だと思う、またはそう思わせる。ところが、厄介だと思ってしまう人が多いと実施できなくなるのが、現代的な困難性になっている。地域のつながりにたどり着けない人が出ることには、通常の身近な場でなければ救えないことで、講座運営にだけ頼ってはいは難しいことだと思う。

○講師：

そのあたりは研究領域になるが、既に若者に対しては、学級講座に人が集まらないことは現実になっている。居場所づくりや通常のロビーワークが大切なことで、施設の敷居を低くしないと若者を取り込むのは難しいと思う。

○会長：

質疑を終結したい。

本日の課題等を互いにぶつけ合い、委員としての資質になるよう吸収して行ってほしい。我々はどこから来て、どこへ行くのか、十分考えてほしい。

(4) 事務連絡及び情報交換

○会長：

情報提供はあるか。

○委員：

今回は、第3水曜日開催になるので注意してほしい。

(5) 次回の日程について

9月16日（水曜日）18時30分

於：田無公民館 第2学習室

○会長：

他に意見がなければ、閉会とする。